

# 令和4年度 第1回学校運営協議会 議事録

## 1 第1回学校運営協議会概要

日 時 令和4年5月18日(水) 15時～  
会 場 大阪府立岸和田高等学校 会議室

### 学校運営協議会委員

桃山学院教育大学学長	中西	正人	様
岸城中学校校長	長岡	英晃	様
岸城幼稚園長	中	貴子	様
同窓会会長	新田谷	修司	様
P T A会長	竹村	太	様
元後援会会長	山路	明子	様

### 学校側参加者

校 長	植木	信博
教 頭	岸野	敏昌
事 務 長	中島	徹
首 席	田坂	太一
首 席	中野	健一
進路指導部長	長谷川	武央

## 2 次第

### (1) はじめに(司会:教頭)

#### 1 校長挨拶

- ・平成21年度から大阪府教育庁の指導主事になり、その後大阪府教育センターの部長を勤め、今年度から再任用校長として岸和田高校に着任した。
- ・大阪府教育庁高等学校課ではGLSH、SSHを担当するグループに所属しており、本校の成果や課題なども把握している。その経験を活かし、教育活動の充実に向け、学校運営にあたりたい。
- ・学校運営協議会は学校運営に関する方針等に対する意見聴取に加えて、承認を得る会である。
- ・委員は保護者、地域住民、学校の運営に資する活動を行う者、学識経験者などの6名である。それぞれの立場から、学校運営や取組みの評価などに関して様々な多くの意見をいただきたい。

#### 2 学校運営協議会委員の自己紹介

#### 3 本校職員の自己紹介

### (2) 協 議

#### ① 令和4年度学校経営計画について(校長より)

##### 【報告】

- ・昨年度行われた第3回の学校運営協議会において、今年度の学校経営計画について承認を得ていたが、改めて、校長として、学校としてめざすべき目標をストレートな言葉に変更するとともに、中期的目標の4つの柱に対する取組みとその取組みに対する評価指標を整理した。そのため、改めて各委員の皆さまに持ち回りで承認をいただいたところである。

- ・「めざす学校像」では、GLHS として生徒の第一に希望する進路の実現を図ることがまずは重要。ただ、大学に入ることが目的ではなく、「確かな学力」のみならず、グローバルリーダーとして求められる「幅広い資質・能力」、「豊かな感性」を育成しなければならない。
- ・SSH については GLHS と同じ平成 23 年度に文部科学省から指定を受けた。昨年度末でⅡ期め終了であったが、これまでの成果が認められ、今年度から 5 年間、Ⅲ期めの指定を受けた。
- ・中期的目標の 4 つの柱に対して実施する本年度の取組内容について、評価指標を定めた。この評価結果を踏まえ、今後、より効果的な取組みとなるよう改善しながら、また、効果の低い取組みは思い切って廃止するなど、いわゆる P D C A サイクルを回しながら進めていきたい。
- ・第 2 回の学校運営協議会では、その進捗について中間報告させていただく。また、第 3 回では、学校教育自己診断や授業アンケートの結果なども確認いただけたと思うので、ご意見をいただきたいと考えている。

### 【質疑応答】

(委員) 取組みを進めていく上で検証しながら改善していくことはとても大切である。ぜひとも、その考え方のもと取組みをすすめていってもらいたい。私自身は岸和田高校が行っている「ハイレベル講習」や「スーパークラス」について、もともと高い目標を持って入学してきた生徒たちをさらに分ける必要があるのだろうかとか疑問に思うところがある。ぜひとも、その成果について検証してほしい。また、今年度の学校経営計画では、「1 人 1 台端末の活用をすすめながら、『主体的・対話的で深い学び』の視点からの授業改善に取り組む」という項目が新規に追加されているが、GIGA スクール構想を踏まえ府が独自に整備した 1 人 1 台端末の活用はどのレベルで達成できるかということも検証していかなければならない。

(委員) 以前は、「いわゆる難関大学に入れば大企業に就職できる」などと言われる時代であったが、今の時代はそういった確約や保証はない。こういう時代の中で、生徒にどのような力を付けるのか、そのために、どのような取組みをすればよいのだろうか。また、どのように目標を立てさせればよいのだろうか。

(学校) 平成 23 年度から設置したグローバルリーダーズハイスクール (GLHS) では課題研究を必須とした。当時、10 校の教員からは大学入試とは関係ないなどの理由で反対する声もあったが、今は課題研究が学校の教育活動として定着している。課題研究などの探究的な学習が生徒の学習意欲に繋がるということも明らかになってきている。

(委員) 「将来、何かになりたい」といった大きな目標がなかったとしても、小さな目標を立てながら、常に目標をもって生活すること大切なのではないか。

(委員) 課題研究を行うことによって色々なことを知ったり学んだりするきっかけになる。大阪府内の文化施設の学芸員などを活用してもよいのではないだろうか。

(学校) 高校で行った課題研究が評価されて大学に合格したという生徒はいなかったが、受験にプレゼンテーションがあった場合など、課題研究を行っていたことが間接的に活かされた場合はあった。

### ② 昨年度の進路実績について (進路指導部より)

#### 【報告】 過去 2 年の進路実績、課題、指導方針について

##### ○実績

- ・京都大学の現役合格者は 0 名 (受験者も 1 名) であったが、大阪大学の現役合格者は増加した。
- ・神戸・大阪公立大学・国公立大学の合格者の総数は減少した。
- ・関関同立、近畿大学の合格者は立命館を除く大学で大きく増加した。  
関西、関学、近畿の増加は現役志向の強さの表れを感じる (浪人生: R3 で 39 名、R4 で 26 名)。
- ・スーパークラスからの京阪神、国公立大学の合格者はほぼ同数であった。
- ・国公立大学の合格率はスーパークラスで 67% (53/79)、スーパークラス以外で 34.9% (83/238)。

○課題

- ・志望校を高く持たせていく（低学年の意識付けが特に重要となる）。
- ・志望大学に見合う学力を付けていく。

○方針

- ・模試の取り組み方を見直す（受験後の復習など）。
- ・自習時間の確保と授業内容の深化（岸高手帳の活用、模試結果を踏まえた授業や考査の実践）。

【質疑応答】なし

③ 新1年生（77期）の状況について（進路指導部より）

【報告】第1回スタディサポート（4月実施）の結果について

- ・Sゾーンの人数が例年から減少した。学習指導要領改訂に伴い、これまでの問題からの変更があったことが影響しているものと考えられるが、特に、英語と国語は前年との差が大きい。
- ・GTZは正答率で決まる。例えば数学では一問ミスをするGTZが1つ下がる程度の問題量であるため、悲観しすぎないべきだが、例年と比べ取り切れない生徒がいることも事実である。
- ・学習時間は例年通りであった。ここから学習習慣を付けられるかが重要である。スケジュール管理と学習時間の確保に向けて、生徒に岸高手帳の活用を促す。

【質疑応答】なし

④ 広報 / グローバルリーダー養成プログラムについて（首席より）

【報告】

- ・本校では6月4日（土）塾対象、8月18日（木）、19日（金）、11月19日（土）に学校説明会を実施予定。
- ・校外でも7月17日（日）、7月24日（日）、11月6日（日）に合同の説明会を実施予定。
- ・塾主催の説明会は昨年度実施されなかったが、今年度は何件か問い合わせがある。
- ・一昨年度作成した「校内見学等の動画」は今年度もHPより閲覧可能。
- ・「グローバルリーダー養成プログラム」について、今年度は海外研修形式ではなく、8月に日本への留学生を招き国内版として実施する。
- ・修学旅行は今年度も国内（9月に北海道へ）。

【質疑応答】なし

⑤ 卒業時のアンケート集計について（校長より）

【報告】

- ・卒業時に、学習に対する意識、学校生活、学校への意識、自分の適性や将来に関するアンケートを実施している。この春に卒業した生徒（74期）についてはコロナ禍の影響もあるのだろうが、肯定的評価は低下している。
- ・GLHS設置当初、岸和田高校の生徒はこうした意識がとても高かった。高かった理由や低下している理由を分析するとともに、学校として教職員全員が生徒の意識の向上に尽力していくことが重要であると考えている。
- ・このアンケート結果や毎年実施しているスタディサポートの結果を見ると、平成26年度からの普通科の学区撤廃や平成30年度からの全クラス文理学科の影響は見られない。

【質疑応答】なし

⑥ 課題研究の取組みについて（首席より）

【報告】

- ・本校は「GLHS (H23～)」「SSH (H23～、第Ⅲ期 R4～)」の指定を受けており、学校全体でこれまでも様々な探究学習に取り組んできた。また、R2 年度より 3 年間、「三菱みらい育成財団」からの助成を受けている。
- ・本校では 3 年間をかけて課題研究に取り組んでいる。授業での主な取組みは、1 年生「SD」で基礎学習とテーマ設定、2 年生「文理課題研究」で研究活動に取り組む成果発表と論文作成、3 年生「CS」でまとめと下級生への継承（希望生徒は研究の継続）。また活動にあたっては、岸和田シティプロモーション推進協議会 (kcp) の協力のもと、協働研究の対象を地域にも展開。
- ・授業外でも、学年全体や希望者を対象とした講演会や見学ツアーなどを実施し、知的好奇心の喚起や意欲意識の向上を図っている。また SSH 第Ⅲ期からの新たな取組みとして、3 年間を通じたサイエンスリーダー育成のための取組み「プロジェクト”Nova”」をスタート。
- ・生徒の取組成果は校内での発表だけでなく、校外での様々な発表会においても発表している。また、科学技術オリンピックなどへも参加している。
- ・これらの活動がきっかけとなり希望進路を考え、その結果として進学を実現する生徒もおり、キャリア教育からの観点からも取組みの効果が表れている。
- ・教員による指導面においても、日ごろの授業でも（課題研究の授業で培われた）思考力や判断力、表現力を育成する活動を取り入れることが多くなっており、授業改善につながっている。さらに、これまでの取組みの成果と課題を整理して目標設定をし、申請をした結果、文部科学省より R4 年度からの SSH 第Ⅲ期に指定された。

【質疑応答】なし

(3) その他

(委員) 学習指導や進路指導に熱心に取り組んでいることはよく理解できた。昨年度、生徒の様子を見せてもらったが、自分が高校の時と比べると行儀よくおとなしい生徒が多いと感じた。自分は今でも高校時代の友達との繋がりが一番強い。今の岸高の生徒たちにとって「岸高の友人が生涯の友」というようなことはあるのだろうか。

(学校) 今の生徒たちにとっても、楽しく高校生活は送れていると思う。卒業してからも会ったりしている様子である。卒業生から岸高の友人が一番ほっとするというような声を聞くこともある。

今後の予定

- ・第 2 回 10 月 19 日（水）15：00～
- ・第 3 回 2 月 15 日（水）15：00～